



権力は腐敗する

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼中国経済の想定を上回る減速が、世界の経済に深刻な打撃を与えています。一党独裁の政府が何とかするだろうといった楽観論は、さすがに影を潜めています。市場を通じた効率的な資源配分こそが健全な経済発展の基礎であると考える方は、近代以降の自由主義圏における共通認識です。一時は米国と並ぶ大国となったソビエト連邦は、国家社会主義に基づく経済の不効率が表面化したことで崩

壊しました。一方、中国は共産党による一党独裁体制を維持しながら、経済面では市場経済を導入することで発展してきました。しかし、世界第二位の経済大国にのし上がったことで、皮肉なことに国家管理体制の矛盾がえって表面化しつつあるといえるでしょう。

▼天津における化学工場倉庫の爆発事故と、その後処理は、こうした国家管理の限界を如実に示しました。危険物のずさんな管理と、情報が公開されていなかったことが、そもそもの原因です。民主国家では、すべての情報が公開され、国民の目の前で対策が検討されます。しかし、天津では、魚が大量死する現実を目前にしても、行政当局は「安全」だと繰り返すだけでした。

▼習近平政権の反腐敗キャンペーンは、現政権の権力基盤を強化する上で一定の成果を上げていと言われてきました。しかし、腐敗を撲滅し、社会経済の健全化に役立っているかどうかは、はなはだ疑問です。なぜなら、腐敗は権力の集中と自由な言論の封殺によって生まれるからです。権力は必ず腐敗します。それを防ぐ手段は、権力の交代と情報の透明性の確保しかありません。

▼中国は経済大国に発展したことで、テクノロジーラートによる政策運営がもはや限界に達しています。何よりも巨大化した市場は、それ自体の論理に従って動きます。無理な市場介入は、かえって市場からの反撃を招くことになりま

資金の流出を招き、それを防ぐための強引な対策はさらに市場の信頼を損ねる結果になりました。権力はもはや市場を破壊することしか使われていないのです。

▼市場経済の健全性は透明性と説明責任によって担保されます。そして市場経済の効率性が重要です。日本においてもその点がいささか曖昧であることが、足かせとなつています。この国の住人は、何かというと国に頼ろうとする、からです。日本の経済はかなりの部分が国家管理の下にあり、依然として不効率と腐敗が進行し、国民全体のためでなく、既得権益者の利害が優先されています。中国を喰うことは、天に唾するようなものです。